

三年とうげ

李錦玉リクムオキ作
朴民宜パクミンイ絵

あるところに、三年とうげとよばれるとうげがありました。

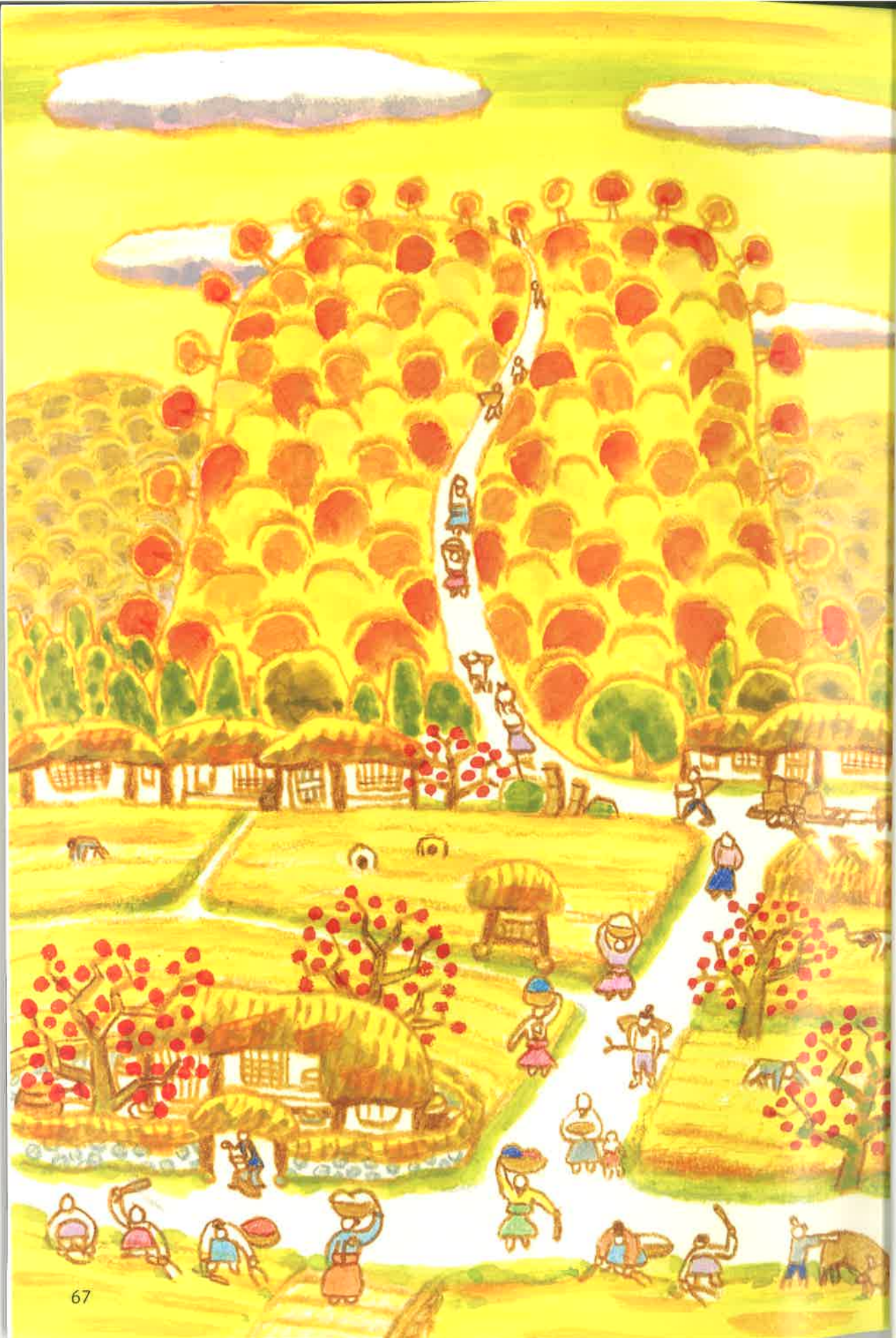
あまり高くない、なだらかなとうげでした。

春には、すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう。とうげからふもとまで
さきみだれました。れんげつつじのさくころは、だれだつてため息の
出るほど、よいながめでした。

秋には、かえて、がまずみ、ぬるでの葉。とうげからふもとまで美
しく色づきました。白いすすきの光るころは、だれだつてため息の出
るほど、よいながめでした。

ため息ためいき

美しいうつくしい



三年とうげには、昔から、こんな言いつたえがありました。

「三年とうげで 転ぶでない。」

三年とうげで 転んだならば、

三年きりしか 生きられぬ。

長生きしたけりや、

転ぶでないぞ。

三年とうげで 転んだならば、

長生きしたくも 生きられぬ。」

ですから、三年とうげをこえるときは、みんな、

転ばないように、おそるおそる歩きました。

ある秋の日のことでした。一人のおじいさん

が、となり村へ、反物たんを売りに行きました。

転ぶ



そして、帰り道、三年とうげにさしかかりました。白いすすきの光るころでした。おじいさんは、こしを下ろしてひと息入れながら、美しいながめにうつとりしていました。しばらくして、

「こうしちやおれぬ。日がくれる。」

おじいさんは、あわてて立ち上がると、

「三年とうげで 転ぶでないぞ。」

三年とうげで 転んだならば、

三年きりしか 生きられぬ。」

と、足を急がせました。

お日様が西にかたむき、夕やけ空がだんだん

暗くなりました。

反物

着物を作るための
ぬの。

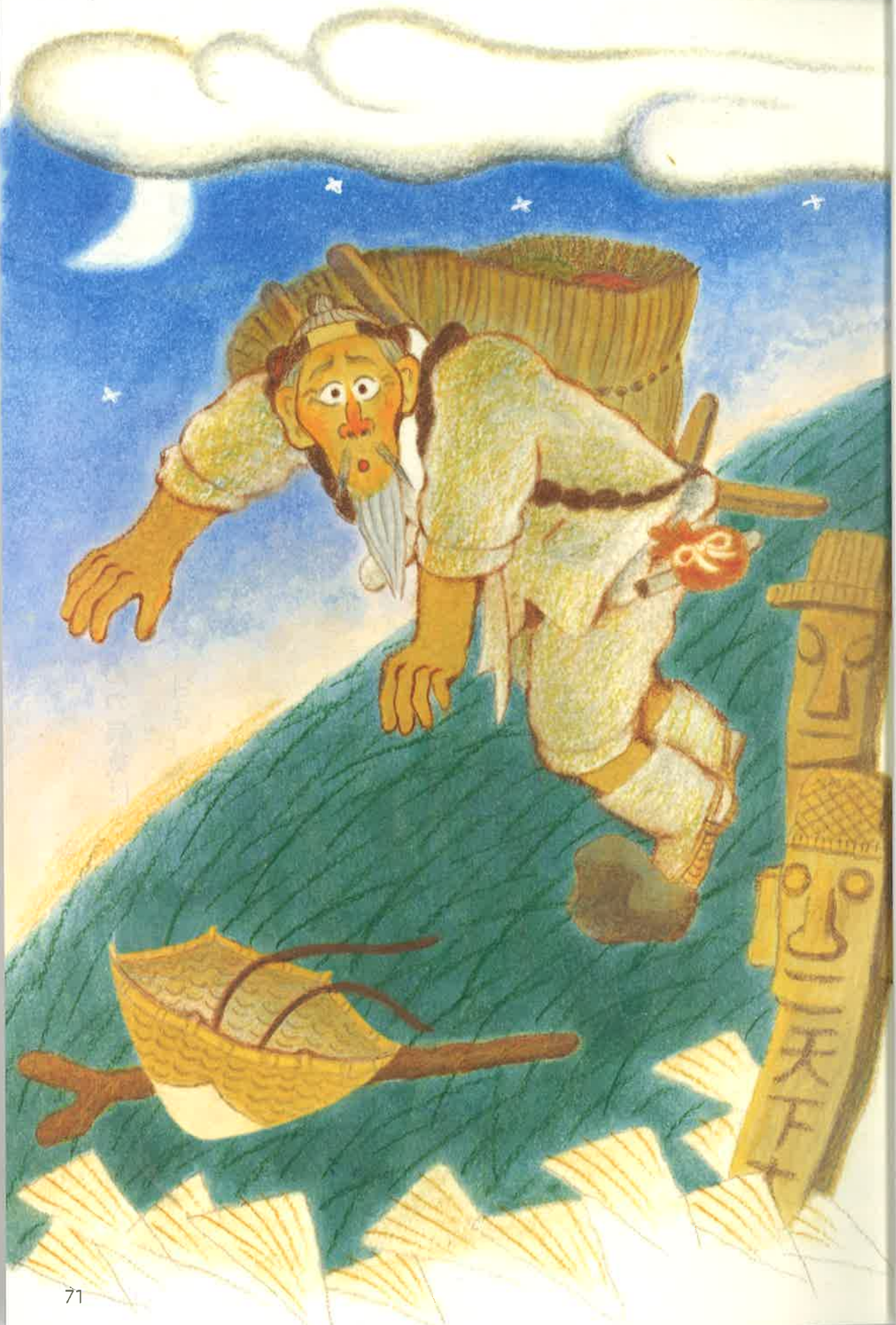


ところがたいへん。あんなに気をつけて歩いてきたのに、おじいさんは、石につまずいて転んでしまいました。おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえました。

家にすっとなんでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみようは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。お医者をよぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきっきりで看病かんしました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

そんなある日のこと、水車屋のトルトリが、みまいに来ました。



病気 ビョウキ

お医者 イイシャ

薬 クすり

飲む のむ

重い おもい

心配 しんぱい

水車屋

水車を使い、米や麦をこなにひく仕事をしている人。



◆ 真っ青 まっさお

「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきつとなおるよ。」
「どうすればなおるんじゃ。」



おじいさんは、ふとんから顔を出しました。

「なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」

「ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか。」

「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、ううんと長生きできるはずだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、うなずきました。

「うん、なるほど、なるほど。」

そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返り、転びました。

このときです。ぬるでの木のかげから、おもしろい歌が聞こえてきました。



ころりん、ころ
りん、すってんころ
り、ぺったんころりん、
ひよいころ、ころりんと、
転びました。あんまりうれし
くなくなったので、しまいに、とう
げからふもとまで、ころころころ
りんと、転がり落ちてしまいました。
そして、けろけろけろっとした顔をして、
「もう、わしの病気はなおった。百年も、
二百年も、長生きができるわい。」
と、にこにこわらいました。

「えいやら えいやら えいやらや。
一ぺん転べば 三年で、
十ぺん転べば 三十年、
百ぺん転べば 三百年。
こけて 転んで ひざついて、
しりもちついて でんぐり返り、
長生きするとは、こりゃ めでたい。
おじいさんは、すっかりうれしくなり
ました。」

こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人
なかよく、幸せに、長生きしたということです。

ところで、三年とうげのぬるでの木のかげで、
「えいやら えいやら えいやらや。」

一ぺん転べば 三年で、
十ぺん転べば 三十年、
百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて、
しりもちついて でんぐり返り、
長生きするとは、こりや めでたい。
と歌ったのは、だれだったのでしょね。



しあち
。幸せ

李錦玉
一九二九〜二〇一九
年。大阪府生まれ。
作家。「へらな稲
たば」「おばけのトケ
ビはわすれんぼう」
などの作品がある。

この本、読もう



世界には、古くから語りつたえられ
てきた民話や昔話がたくさんあります。
いろいろな国やちいきのお話を読んで
みましょう。



世界のむかしばなし



りこうな子ども アジアの昔話



いたずらおばけ



天の火をぬすんだウサギ



シンドバッドの冒険



スリランカの昔話
ふしぎな銀の木



くいしんぼうシマウマ



わたしがすきな「おお
きなかぶ」は、ロシアの
民話なんだって。